

第 12 回 J N T O 同窓会開催報告

日 時：2019年1月30日（水） 15：00～17：00

懇親会（二次会） 17：30～20：00

場 所：慶応大学三田キャンパス南校舎3F [萬来舎]（二次会は中華料理店「大連」）

参加者：例 会（9名）：川井仁史、石井昭夫、北出明、上村仁、小石悟（新会員）、
末松睦子、桜井秀夫、大野金幸（新会員）、間宮忠敏（特別会員）

懇親会（7名）：川井仁史、石井昭夫、北出明、田中五十一、小石悟、桜井秀夫、
大野金幸

特別会員：間宮忠敏・元 JNTO 理事長が例会に参加

会 費：1,000円（例会）、懇親会（2,500円）

次 第：

1. 開会と連絡（北出代表幹事）

- ・昨年 JNTO を退職された大野金幸君と、退職後も JNTO とお付き合いが続いている小石悟君のお二人が新規に入会されました。
- ・通知のとおり本日は大野君に JNTO 勤務時代のお話と近況などをお話しいただくことになっています。
- ・本日は3時から5時までを定例の「勉強会」とし、5時半から近くの中華レストランで懇親会を開催します。両方に参加される方と片方だけ参加の方があります。
- ・故平田真幸氏の夫人から、弔意を寄せて頂いた方に差し上げて下さいとのことで、同氏著「国際観光マーケティングの理論と実践」を託されました。関係の方々にお届けします。
- ・今年も1年間楽しくやりましょう。

2. 大野講師のプレゼン

パワーポイントを使って、大野さんが JNTO 入社以来担当してきた仕事のうち、印象に残っていることの概要を話された後、退職後家業としている「外国人旅館」の営業の状況、そこから見えてくるものなどを面白く説明されました。パワポのプレゼンなので、データ類はメモできませんでした。

- ・国内（本部）での仕事では予算担当をしていた時代のことが強く印象に残っている。役所と頻繁に折衝し、補助率の違いなどでの調整の苦労、海外事務所への送金事務、始終変わる為替レートの調整などでいろいろ体験をした。ほかに本部での海外事務所長会議に際して実施していた賛助会員などの関係者に対する市場説明会を充実させて今の「インバウンド・フォーラム」の原型をつくったことが記憶に残っている。
- ・海外事務所には NYC（1988～93）、YYX（2000～04）、FRA（2013～18）に勤務した。NYC 時代は末松さんと一緒だった。この時は日系の観光関係機関との親睦会のことなどが印象に残っている。教会で新年会をやったら 300 人も集まったとか。YYZ ではツアー造成企画をやったことを思い出す。ひとつは、沖縄が長寿国で「食の楽園」として紹介する「沖縄プログラム」という本をカナダ人が出版して沖縄がクローズアップされた。そこで作家の了解を得て旅行業者と組んで「沖縄プログラム」という食のツアーを売り出そうとした。ところがカナダの栄養学会だったか、医学関係の諒解を得るというようなことを言われて、この名前では販売できなかったが、

名前と形を変えてツアーの販売にはこぎつけた。

- ・もうひとつは、親しくしていたツアー・イーストという旅行者から、顧客にユダヤ系の人が多いので彼らを対象とするツアーを作りたいという相談があった。杉原千畝さんにちなむツアーの販売をすることにし、岐阜とか高山などゆかりの地や観光地を巡るツアーを販売した。100名程度集まったのだが、たまたまその頃トロントで反ユダヤ的な事件が起こって代表が行けなくなってしまい、結局出発しなかった。アイデアと内容はいいということで後日催行することになった。私がトロントにいた間には出なかったけど、ある程度売れたと思う（この件は杉原研究者の北出会員が自分が杉原研究に取り組む以前のことで知って意外だとのコメントあり）。
- ・三度目の海外勤務は、それまで縁のなかったヨーロッパのフランクフルトに。ドイツ観光市場の概要および訪日市場について紹介。ほかにドイツ人の日本観、日本人のドイツ観などの興味ある話題も。
- ・次いで JNTO 退職後携わっている家業の外国人向け旅館について。2010 年から椎名町でファミリーイン・サイコー（西向）という外国人向けの 13 室の和室旅館をやっている。トリップアドバイザーのアンケートの外国人利用者の評判が抜群に良い（チョイス・アワードを毎年受けている）。2014 年に並みいる一流ホテルを差し置いて 4 位にランク付されたので、なぜこんなところにある小旅館が評判をとるのかとテレビの取材を受けた。それにつられて別のテレビも来た。これらは日本国内で放映されるだけだから外人客への宣伝にはならず、逆に日本人の冷やかしの客が増えていろいろ言われるので、以後取材を断っているようだ（自分がフランクフルトに行ったあと）。
- ・この旅館の経営方針や利用状況などについて説明。日本人客の比率はジャパニーズインの宿より少なく 14% くらい。テレビに出てから「外国人好き」的日本人が泊りに来て客に話しかけたり、勝手な評をしたりするし、こちらの望まぬ 1 泊だけの客なのでわずらわしいだけ。ただし、日本人客の中には、近所の人の冠婚葬祭にきた親戚の人とかが食事は親せき宅でも家には泊れないから、近くにあるわが旅館に泊まるというような客がいる。こういう需要もあるのだなと思った。
- ・JNTO 勤務経験の長い大野さんならではの利用客に係わる多様な視点の調査・分析が興味深かった。部屋の使い方や予約の仕方など、様々な点で欧米客とアジア客の違い、アジア客の中でも国による相違などのナマ情報も面白かった。

3. JNTO 同窓会のホームページの試作について（石井記録担当）

- ・わりと早い時期に「同窓会」の活動を紹介したり、古い時代の JNTO の活動の記録を残すことなどを考えてホームページ（HP）を作ること検討して来た。お金がかかるので、とりあえずどんなものができるかイメージだけでも作ってみたいと考えて、昨年 11 月末にこれまでに集まった資料をもとに、自分の HP「石井昭夫の観光研究室」の中に「JNTO 同窓会」の枝を設けて試作してみた。
- ・幹事さんに見てもらい、改良版をメンバーの皆さんに見てもらおうということで了解を頂いたが、パソコンの不具合その他で改善も更新も出来ていない。古いままだけ覗いて見て下さい。「石井昭夫の観光研究室」と打ち込むとタイトルの左下に「JNTO 同窓会はこちら」という項目があります。川井さんが持参の iPad で出して見せて下さった。
- ・内容は JNTO 同窓会の趣旨・目的、どんな会かという説明、毎回の会合の記録といった会そのものの紹介のほか、日本政府観光局とはどういう組織か、その歴史なども知ってもらえるような記事を書いている。昔の「観光同人」にいろいろ興味ある

座談会が載っているし、平山清さんや池田淳さんが貴重な回想記を書いておられるので、そういうのをピックアップして転載している。

- ・会員の皆さんや関係者からの投稿を載せるデジタル版「新観光同人」とでもいうべき項目をHPに採り入れることも考えられる。ただし、HPでは投稿者が直接原稿を入れることができないので、一定のフォームの下で石井が取り込む形になる。
- ・日本のインバウンド観光発展史を書いてHPに掲載しつつあるが、皆さんからいろいろ記録やデータや思い出話などを頂いてもう少しやわらかくし、「日本政府観光局の物語」という副題を付けたものを出版できないかと、目下原稿を書いている。今後ともご協力を頂ければ幸い。

3. 意見交換（思い出話など）：添乗について

- ・時間がなかったので「添乗の思い出」について少し。「観光同人第6号」（1971年）に渡辺幸雄さんの「あつ旋日記より」に、女性二人の客を福田家に招待して案内したときの話が載っている。事前に説明するのを怠ったため、先に行った二人が靴のまま畳の上に上がってしまった…。第9号（1975年）には総福正光君の「Mr. Sousa 添乗記」というのがあって、箱根・熱海経由、東海道から伊勢志摩、京都奈良に至る典型的国際観光ルートの毎日の添乗記録が詳細に掲載されている。塚本恭丈君の話では、一流鮮魚料理店に年配の女性記者を案内したら、頭と尻尾のついた骨の上にお刺身が盛られた活造りが出た。骨だけになった魚がびくびく動いているのを見て失神したという話もあった。こういう話を原稿に使わせてもらっている。
- ・大野さんのスキー添乗。1985年頃だったか、ドイツのジャーナリスト（フランクフルター・アルゲマイネ）に添乗して蔵王ともう1カ所のスキー場を回ったことがある。最初に山形県庁を訪ねると、観光課長さんが出てきていきなり手品を始めてウェルカムの意志を表明するという歓迎ぶり。山寺などの観光地も回ったが到着時からずっと地元テレビがついてきた。宿に泊ったら近所の酒屋さんがドイツワインを持ってきてくれたり、スキー場に行ったら二人でリフトに乗ろうとしたら、それまで乗り場で列を作らずに溜まっていたスキーヤーたちが、われわれが近づくと十戒の海が割れるように、さあ〜と道を開けてくれた。テレビに出ていた人たちだという声が聞えた。当時は外国人が取材に来るといえば特別扱いだった。
- ・北出さんの最近の経験。去年の話だが、イタリア政観にいたエンゾーさんの頼みで5人のフランス人グループを観光案内した。京都の革製品の店で、お医者さん夫妻が65万円の鱔皮バッグを気に入って値切り交渉を始めた。外人さんには初めから10%の特別割引をしているから値引きなしだというのに、しつこく値切っている。途中からコミュニケーションだけ手伝うことになり、55万円にまけさせた。店の人がお礼のつもりかこちらは断ったのに小さい包みをくれた。ところが支払う段になってなぜかカードがアクセプトされず、ご破算になった。成立しなかったのに包みを貰うわけにはいかないとお返ししたら、先方も一度出したものだからと引っ込まない。自分はそんな立場の者ではないし、そもそもそのようなつもりで来ているのではないと主張して結局返しました（笑）。
- ・カードがアクセプトされなかった件について、大野さんが旅館での支払いの経験から、EC諸国のカードで時々EC域内のみという限定のものがある。お金があるなしではなく、カード発行の際の有効範囲の選択によるもので、これだとEU外では使えない。解除は可能だが、すぐその場でできないこともあるし、事前のチェックで把握できないこともあって困ったことがある。末松さんの話では、観光案内所でも時々同じ問題が発生している。本人が連絡すれば解除できるのだが、休日だと

銀行も大使館も休みで、キャッシュ全然なし、という困った状態に陥る。「ユーは何しに…」という番組でも、カードが使えず、キャッシュは持っておらず、翌日 6 時まで動きがとれなかったという例を紹介していた。

- ・間宮特別会員より。前回ポーランド大使館の人の話をこの会で聞き、それがきっかけで 10 日間のツアーでポーランドに行った。19 人のグループだった。あちこち回りアウシュビッツにも行った。凄惨な雰囲気は今でも感じられたが、かなり博物館化していて、さらに時間が立つと風化する危険ありと感じた。若いドイツ人たちはすでにアウシュビッツの凄惨さは実感できなくなっていると思う。また、戦時中ポーランドの残留孤児を日本が救った話を知っている人はほとんどいなかった。
- ・凄惨な遺跡の博物館化について、アンネの日記の部屋（アムステルダム）はもっと変化が激しく、1970 年代に行ったときは寒々として鬼気迫る雰囲気だったのに、近年行ってみたら予約なしでは入れないとか、行列ができるほど観光化していた（北出）。ポーランド孤児救出の物語については、本が出ているほか You Tube でも紹介されている（小石）、今年が日ポ修好 100 周年に当たり、いろいろ行事が予定されている（北出）、などが紹介された（孤児救出の話は第 9 回懇親会記録も参照）。さらに日ポ交流については、担当地域のフランクフルト事務所にいた大野さん、実際に旅をされた間宮さんから、最近の日本とポーランドの文化交流や教育事情などが紹介された。
- ・前後したが、3 年間だけ JNTO に在籍した小石悟さんの JNTO の思い出話。自分も在籍中フランス語スタッフが少なかったので何度か添乗の経験をした。その中の 1 人にルモンドの記者がいた。上司に來た話が自分に廻ってきただけで、あまり日本への関心がなかった。予定のインタビューに行っても仕事熱心でなく、1 時間の予定を 10 分くらいで切り上げたりして、二人で遊んでいた。そのおかげで 45 年後の今も親しく付き合っている。僕がフランスに行くと会うし、彼も二度くらい日本に來た。子供の名前も同じにしたくらいの親友になった。JNTO のおかげだと感謝している。彼は社長になるくらい優秀な人材で、3 人の社長候補に残っていたけど、最年長であること、組合運動を激しくやったことなどもあって、社長にはならなかったが、編集長にはなった。
- ・この件については、石井がパリ時代に A 級あつ旋の候補者としてなんとかルモンド紙の編集長クラスの訪日取材の約束を取り付けたが、結果は本人でなく若手が訪日したことがあったが、それとは別件であった。関連して、大野さんの話では、最近の JNTO では職員がメディア協力として添乗すること自体がなくなっている由。
- ・末松さんは二次懇親会に参加できないため例会のみ。現在 J R 東京駅北口の訪日旅行センター内の観光案内所で仕事をしているとのこと。

4. 二次懇談会

- ・慶応大学付近の中華料理店「大連」にて約 2 時間半に亘って談論風発。主として海外事務所勤務に係わる思い出話に花が咲きました。川井さんから大野君までの世代に加えて、JTB の経験を話に加えてくれた桜井秀夫さん、外から見ていた小石悟さんの話を交え、記録担当者としては知られざる話をたっぷり聞かせて頂き、無上の喜びでした。

文責：石井昭夫記録担当幹事